

先進自治体事例紹介②

#	自治体名	講演名
2	宮城県仙台市（まちづくり政策局政策企画部プロジェクト推進課）	診療カーによるオンライン診療の推進

【発言要旨】

■ 国家戦略特区とオンライン診療の背景

- 仙台市は平成27年度より「国家戦略特区」に認定されており、「世界で一番ビジネスしやすい環境」の構築を目指している。
- オンライン診療は、特区メニューの一つである「オンライン服薬指導」の活用からスタートした。

■ 中山間地域の医療課題と実証の開始

- 仙台市は都市部から中山間地域まで広域を有しており、特に中山間地域では医師不足や医療アクセスの課題が顕著である。
- 平成30年度より、オンライン服薬指導を起点にオンライン診療の実証を検討開始。
- 当初は医師会から慎重な意見もあったが、有志の医師による協力を得て、令和2年度から実証を開始。

■ 実証の進展と課題

- 令和2年度の実証では、精神科患者への対応において、外見症状の把握に課題があることが判明。
- コロナ禍の影響で令和3年度は停滞したが、令和4年度より再始動。
- 仙台市医師会、仙台市、東北大学、NTT東日本による連携体制を構築し、定例会を開催。

■ モバイル診療車の導入と技術評価

- NTT東日本がプロジェクトマネージャーとして調整を担い、軽トラックを改造した診療車を構築。

- 看護師が同乗する「Doctor to Patient with Nurse」型のオンライン診療を実施。
- 郊外エリアでの実証では、生体情報や画像伝送の技術評価を実施し、法人ネットワークであれば実用に耐える結果を得た。
- 一方で、車両のサイズやレイアウト、電子聴診器の音質、画像の解像度などに改善の余地があることが判明。

■ 二代目診療車と服薬指導の整備

- 令和4年度の実証を踏まえ、ハイエース型の大型診療車を新たに構築。
- 小型ディスプレイ「小窓」やウェアラブルカメラの導入も予定。
- オンライン服薬指導の環境整備を進め、診療から服薬までの一気通貫プロセスの確立を目指す。
- 国の第二世代交付金を活用して機能強化を図る。

■ 今後の展望と広域展開

- 宮城県との連携により、仙台市外での実証も予定しており、「仙台型オンライン診療」の裾野拡大を目指している。
- まだ課題もあるが、課題を解決しながら、事業を前に進めていきたい。新たな展開も模索しながらだと考えている。
- 今後は、オンライン診療カーを活用する医療機関の積み増しや、利用する患者の増加を図っていく必要があると考えている。
- 現時点では自走化に向けた途上であり、今後も多

様な主体との連携を通じて課題解決を進めていく方針である。

【主な質疑】

■ 特区制度の活用を検討していた当初から、オンライン診療を実施することを考えて、特区制度を申請したのか。

- 特区認定を目指していた当初は、オンライン診療の導入は明確に想定されていなかった。
- 特区認定後に、既存メニューの中に「オンライン服薬指導」があることを確認し、活用を検討した。

■ 特区制度を活用して、どのようなメリットがあったか。

- 特区制度の柔軟性を活かし、既存制度と新たな取り組みを融合させながら実行している。
- 特区活用は結果的に後付け的な要素もあり、制度の中で可能なことを模索しながら進めてきた。

■ オンライン診療の対象患者はどのような方を対象としているのか。

- 対象は、内科の慢性疾患を持ち、すでに協力医療機関に通院している患者である。
- 初診患者への対応は行っておらず、継続的に通院している患者を対象としている。
- 医療機関の医師と連携しながら、オンライン診療を実施している。